

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 6 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730677

研究課題名（和文） ブラジルにおけるノンフォーマル教育と社会的包摂に関する基礎的調査研究

研究課題名（英文） Fundamental Research about non-formal education and social inclusion in Brazil

研究代表者

田村 梨花（TAMURA RIKI）

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50349031

研究成果の概要（和文）：ブラジルの都市貧困地域の子どもに対し NGO の実践するノンフォーマル教育が就学、雇用、行政参加という社会的包摂に与える影響の分析を試みた。ノンフォーマル教育組織では社会的包摂の概念において経済的エンパワーメントよりも政治的エンパワーメントが重要視されること、ノンフォーマル教育の社会的影響の分析には、社会的排除／包摂の観点にとどまらず、地域社会・国際社会にひらかれた教育活動のネットワークがもたらす社会関係資本の観点も含めて検討すべきであることが確認された。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes the impact of NGO's non-formal education for children in urban poor areas of Brazil on social inclusion, such as school enrollment, employment, political participation. Some suggestions have been confirmed: a political empowerment is seen more important than economic empowerment in the concept of social inclusion by organizations of non-formal education; the analysis of the social impact of non-formal education should be considered the perspective of social capital generated in the network of its educational activities in regional and international level.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：地域研究、ブラジル、ノンフォーマル教育、民衆教育、社会的包摂、社会関係資本、エンパワーメント、NGO

1. 研究開始当初の背景

奴隷制と大土地所有制を基盤に形成された植民地としての歴史をもつブラジルは、黒人や零細・土地なし農民という社会的排除の構造を有してきた地域である。軍事政権（1964-1985）における国家主導の経済開発は農業の大規模機械化を推進し、都市貧困層は拡大した。

そうした背景において、生活状況を克服す

る方法を模索し不平等な社会構造の変革を求める活動が民衆運動として発展した。自らの置かれた生活状況を住民が客観的・主体的に捉え、実生活に必要な知を学び、エンパワーする過程は民衆教育として生成された。

1985年の民政移管後、特にカルドーズ政権（1995-2002）において「社会民主主義」に基づく政府・民間企業・市民社会の連携を重視する社会政策が実施され、民衆運動の多くは NGO として地域社会の開発政策へのアド

ボカシー活動を展開した。民主主義的制度整備が進む一方、グローバル化にともなう経済自由化政策による所得格差の拡大の影響を受け、所得分配の平等化・市民権 (cidadania) の獲得という社会的公正の構築が NGO の次なる目標とされた。民衆教育組織は、行政等各アクターと連携関係を保ちながら、コミュニティの社会問題の解決のための実践を継続している。

社会運動としての性格を有するブラジルの民衆教育はノンフォーマル教育の一形態と位置づけられる。申請者は、ブラジルの民衆教育の実践の質的理解のため、1998 年以降北部パラ州ベレン市の NGO「エマウス共和国運動 (Movimento República de Emaús : 以下エマウス)」において長期的フィールドワークを実施し、民衆教育の特徴、公教育就学との関連性、シティズンシップ教育、「開発」概念の分析から民衆教育の可能性について検討するとともに、社会政策における市民社会との連携の分析により民衆教育の社会的影響力について考察をすすめてきた。本研究の分析に用いた主な論点は下記の 2 点である。

(1) 途上国のノンフォーマル教育の通時的研究

途上国の社会開発において教育開発、公教育の完全普及におけるノンフォーマル教育の役割分析は、青年成人教育、公教育との関連、エンパワーメント、開発教育的役割といった観点による共時的分析が主とされ、卒業後の子どもの通時的分析 (追跡調査) の蓄積は例が少ないこと、また地域内に複数存在するノンフォーマル教育の多様性と相互関係を考慮し、教育効果以外の労働、社会参加を含めた地域社会全体に対する影響力に着目することを目標とした。

(2) ノンフォーマル教育と社会的包摂の実証的研究

貧困層、長期失業者、ホームレス問題等を研究課題として展開される社会的包摂論は、教育学においては特別支援教育を必要とする子ども、エスニック・マイノリティの子どもに焦点をあてた研究が多い。教育社会学の分野では、社会的排除層に対するノンフォーマル教育の重要性が認められながらも、社会的排除を克服した子どもへの影響力を事例分析する研究蓄積は少ないことから、本研究では排除層とされた人々を主体とし、ミクロな視点からの分析を試みることで、社会格差の是正を可能とする社会的包摂に対しノンフォーマル教育の潜在力を実証することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、ブラジル都市貧困地域の NGO の実践するノンフォーマル教育活動に参加した経験を持つ子ども・若者の卒業後の社会的包摂の過程に関する研究のために実施する基礎的調査研究である。ブラジルにおいて社会的排除層と位置づけられる都市貧困層の子ども、特に路上生活・児童労働の経験のある子どもが、公教育とは異なるノンフォーマル教育を受けることで、中等・高等教育への就学、雇用市場への参入、自治体行政への参加という社会的包摂を獲得する過程を分析し、途上国のノンフォーマル教育の社会的役割の可能性と限界を人類学的調査に基づき考察するための調査研究を行う。

本研究で得られるデータを基に、さらに継続した聞き取り調査等質的調査を実施し、民族誌として記述・分析することで、ノンフォーマル教育に内在する社会的影響力を通時的・人類学的手法により明らかにすることを最終的な目標とする。具体的には以下の 2 点を軸とする。

(1) 調査対象地域におけるノンフォーマル教育活動諸団体と相互関係の把握

特定の地域に共時的に存在するノンフォーマル教育組織の活動内容、所在地、活動地、相互関係性を把握するために、ブラジル北部ベレン市に活動拠点を置く各組織の調査 (資料作成、マッピング)、および組織間の相互関係 (子どもの共有、住み分け、協力関係) を整理する。ノンフォーマル教育の地域全体への影響力を視野に入れた包括的理解の深化を目的とする。同時に公教育機関の地理的把握も行う。

(2) ノンフォーマル教育活動参加者の卒業後の動向および生活状況に関する統計データ作成

申請者が 1998 年以降調査を継続的に実施している NGO エマウスを中心に、ノンフォーマル教育に参加した経験のある子どもの追跡調査に必要な統計資料を作成する。具体的には、参加年数、卒業後の動向、居住地、生活状況 (最終学歴、雇用等) をデータベース化する。実際に子どもと接した教育担当スタッフの協力の下、訪問調査および聞き取り調査を行うとともに、調査の目的を被調査者に説明し、本調査のための信頼関係を形成することを目的とする。

また、本研究の実施により調査対象団体お

よび調査対象者とのラポールの構築、および基礎的調査の徹底と地域の全体像の把握等、その後の本調査に必要な長期現地調査の効率化も目的のひとつである。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

ブラジル地域研究、教育人類学、ノンフォーマル教育、社会的排除／包摂論等に関する研究論文、特にパラ連邦大学、サンパウロ大学等における都市貧困地域のコミュニティ教育・民衆教育の事例研究に関する博士論文を中心に入手し、文献調査を行なった。

(2) 現地調査（2009年8～9月）と情報整理

① ノンフォーマル教育組織におけるフィールドワーク

教育に参加した子ども・青年の卒業後の動向に関する追跡調査と聞き取り調査の実施要領に関して、調査協力団体エマウスの管理運営部および教育担当スタッフへの聞き取り調査を実施し、同時に調査補助者の適性、あるいはNGO側による候補者の推薦に関して意見交換を行なった。

② 現地研究者との意見交換

ベレンの児童福祉政策とNGOの教育活動との連携プログラムを展開し、エマウスとの交流が深いパラ連邦大学児童青少年アウトリーチ・プログラム（Programa de Extensão Infância e Adolescência:PIA）のマシエル教授（Maciel, Carlos：社会学）、ラマラン教授（Lamarão, Maria Luiza Nobre：社会学）に聞き取り調査を実施し、本研究に必要な調査補助者の適任者の選定について意見交換を行なった。

③ 教育局における聞き取り調査および資料収集

ベレン市教育局の資料室にて文献調査を実施した。また、初等教育、NGOとの連携プログラムの各担当官に聞き取り調査を行なった。

(3) 現地調査（2011年10月～2012年3月）と情報整理

① ボランティア経験者への追跡調査

エマウスでの経験がその後の進路選択に与えた影響を調査するため、帰国したエマウスのボランティア経験者に対し追跡調査を行なった。

② 日本におけるノンフォーマル教育組織におけるフィールドワーク

上記経験者のひとりが日本においてエマウスと類似する特徴をもつNPOのスタッフとして活躍しており、その組織のノンフォーマル教育の参与観察を行なった。また、当該NPOの運営スタッフにも聞き取り調査を行なった。

4. 研究成果

(1) ブラジルのノンフォーマル教育の理解と論点整理

① ブラジルのノンフォーマル教育の特徴

ブラジルにおけるノンフォーマル教育はその主体の多くが軍事政権下に萌芽したNGOであることから「社会運動」の文脈で理解される（Gadotti, Gohn）。民主主義的性格を持つ近代公教育の発展は、民主的憲法（1988）を原則とする改正教育法（1996）以降であり、民政移管後のブラジルの教育研究の中心的課題は「公教育の普遍化」とされ、ノンフォーマル教育の概念分析は90年代以降に着手された。しかしながら軍事政権下に生成された民衆運動、社会運動における「ノンフォーマルな形態における教育活動」の歴史は長く、民衆教育の実践の蓄積がブラジルにおけるノンフォーマル教育の基盤を形成したと理解できる。

以上のような背景から、ブラジルのノンフォーマル教育の特徴は、1. 社会的公正と民衆の政治参加（民主化）の要求（市民権 cidadania の獲得のための手段）、2. 意識化と対話（P. Freire）を可能とする空間の創出、3. 活動の多様性とその受容（複雑な社会的排除層により多様な活動を展開）4. 国内外のネットワーク（世界社会フォーラム等）と考察される。

② 教育政策との関連性

ブラジルのノンフォーマル教育は先述の通り政治を変革する社会運動としての性格を強く帯びたものであるが、その多くは公教育を否定するものではない。教育政策においてノンフォーマル教育は連携組織として位置づけられ、教育の民主化、教育のアクター間の交流、全日制を目的とする教育プログラム等において積極的な関係性を構築している。

教育政策とノンフォーマル教育の連携においては政策への「取り込み、内部化」と既存の教育の内部変革という両者の認識の差異が議論されるが、教育活動の主体が学習者（地域社会、地域住民、当事者等）であるか否かがノンフォーマル教育組織にとって重

要な分析点である。

上記のうち地域社会における潜在的な教育空間を活用して行われる教育政策については「ブラジルにおけるノンフォーマル教育—教育指標の変化と政策との連携における分析から—」（第三世界の教育研究会 2012 年 1 月例会、於国立教育政策研究所）において報告の機会を得た。

(2) ノンフォーマル教育と社会的包摂の関係性に関する理解と論点整理

①ブラジルの事例

NGO エマウスの運営スタッフ、教育活動参加者の OB・OG、大学生インターンに対する聞き取り調査により下記の点が理解された。エマウスの設立は 1970 年であり、相当数の卒業生が存在し、高等教育への進学、正規雇用就職を実現した者は頻繁にみられ、現在もベレン市に在住しているため卒業後時間を経ても追跡調査は困難ではないことが示された。そのうち現在も活動に積極的に関わっている人材は相対的には低い。よって活動紹介やイベント等（2010 年には創立 40 周年祝賀会を開催）を利用して積極的に卒業生に連絡を取るプログラムが計画されていたが、その主要な目的は組織運営の支援を募ることであった。

一方で、追跡調査の協力者の選定において組織スタッフは卒業後に地域社会またはサンパウロ、リオデジャネイロ等大都市において社会運動を行なう NGO のスタッフとなった卒業生を積極的に推薦した。このことから、ノンフォーマル教育組織のスタッフは社会的包摂の概念において進学・就職を含めた経済的エンパワーメントよりも、行政への影響力をもつ仕事についているか、国内外 NGO のコアメンバーといった社会変容の主体となりうる力を有しているかという政治的エンパワーメントが分析視点として重要視されていることが確認できた。

②日本の事例

過去に日本からエマウスへボランティア・研修に赴き当該組織のノンフォーマル教育を経験した者の多くは帰国後さまざまな社会活動・教育活動に従事している。その多くは NPO 事業の短期契約スタッフとして社会問題の解決にかかわる業務に携わっている。特に際立つのは 2011 年 3 月の東日本大震災の被災地支援に密接に関わる割合が多いことである。内容は物資援助、側溝整備、子ども支援、避難者支援、放射能汚染に関する情報提供など多岐にわたり、個人のライフスタイルを検討するレベルで社会活動に積極的・継続的に参加している。今後も聞き取り調査を継続し、ノンフォーマル教育で得た経

験と個人の人生選択との関係を明らかにする予定である。

ボランティア経験者のひとりとは外国につながる子どもの教育支援に関わる NPO の運営に関わっている。本 NPO はエマウスと類似する特徴を有するノンフォーマル教育組織であり、調査者も継続的に当該組織においてフィールドワークを行なった。

本組織は文部科学省の「定住外国人の子どもの就学支援事業」を受託し外国につながる子どもの就学・学習支援を実践している組織であるが、その活動は学習支援や就学継続のサポート（保護者面談、公立学校との連携、進路相談、受験支援を含む）に留まらず、子どもの家庭生活環境の把握といった社会福祉面の役割を果たしながら、一方では国際交流や震災支援など諸企画への子どもの社会参加の促進や、公立学校の場で求められるものとは異なる自己表現の機会の提供を重要視する活動を展開している。こうした活動に関わること（＝ノンフォーマル教育に参加すること）は子どもたちの就学継続あるいは進路決定に影響を与えるだけではなく、エマウスにみられた事例同様子どもの社会的・心理的エンパワーメントの役割を果たしていることが確認できた。本組織における調査は今後も継続して実施し、ブラジルの事例と比較しながら分析を進める予定である。

(3) 今後の調査に必要な情報整理

調査対象 NGO の卒業生（キー・インフォーマント）との情報交換を行い、今後継続する現地調査に必要な情報を整理した。また、ベレン市教育局、子ども権利センターにて入手した教育組織の所在地・連絡先等のデータを用いて市内における公教育およびノンフォーマル教育組織をマッピングし、教育活動の包括的把握に努めた。

以上のことから、ノンフォーマル教育の社会的影響の分析には、エマウスの位置するベレン市という限定的なコミュニティにおける社会的排除／包摂の観点からの分析にとどまらず、地域社会・国際社会にひらかれた教育活動のネットワークがもたらす社会関係資本の観点も含めて検討すべきであることが明確化された。引き続きエマウスの活動の経験者の追跡調査を国内外含めて継続し、本調査で確認された分析視点を含めたノンフォーマル教育の質的分析と民族誌作成に取り組む予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計2件）

1. 田村梨花「民衆から教育を学ぶ——ブラジル北部におけるフィールドワークより」吉田研作編『外国研究の現在と未来』、上智大学出版会、2010年、96～104ページ。

2. 田村梨花「NGOによる教育実践と子どものエンパワーメント」篠田武史・宇佐見耕一編『安心社会を創る—ラテン・アメリカ市民社会の挑戦に学ぶ』新評論、2009年、175～201ページ。

〔その他〕

研究会報告

田村梨花「ブラジルにおけるノンフォーマル教育—教育指標の変化と政策との連携における分析から—」第三世界の教育研究会2012年1月例会、2012年1月21日、国立教育政策研究所。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田村 梨花 (TAMURA RIKI)
上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号：50349031

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし